

姓氏

和書門			
二九六	一	三	類
二	三	四	架
三七	冊		

內閣文庫			
二九六	一	三	和書類
二	三	四	架
三七	冊		

(八才)

內閣文庫		
番號	和	29281
冊數	37	(8)
函號	175	103

(三七)八

丹波志

多紀郡

三ノ三



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



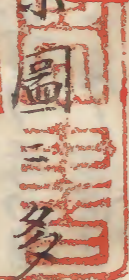
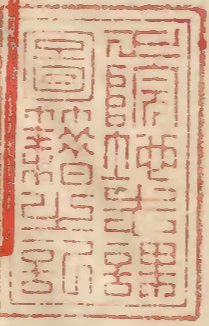
再一〇九八九號

大羊庄中村

山田氏卜云

家紋雁カ子今菊ニカリ金

五郎兵衛家系



右系圖書
 田滿仲頼信頼義新羅三郎義
 光新羅十郎義忠同七郎義高同三之允義
 治同河内祐義胤同兵庫女義長同左京亮
 義貞建保八亂二北条二屬二丹波国大羊
 郷二居住号山田其子義久其子義康足利
 尊氏郷二屬其子氏部頼廣其子十郎重氏
 其子弥助重弘其子十郎右衛門利国其子
 七郎国元其子未女三郎元久其子丹弥利

元其子源太郎利忠其子弥七廣吉其子
其子五郎左衛門輝吉下有

按スルニ頼義嫡男ヲハ八幡大神ヲ以
テ崇敬シタマイテ八幡太郎ト号シニ
男ヲハ如茂大神ヲ以テ崇敬セシメテ加
茂次郎ト号シ三男ヲハ新羅明神ヲ
以テ崇敬セシメテ新羅三郎ト号シ
五ノ曾テ氏ニ非義忠ハ義家ノ四男
ニテ河内守ト号シ横死其子義清ト
云義高ハ六男毛利六郎ト号一二義
忠ノ子トアリ平治ノ乱ニ近江ニテ
自殺ス其子義成ト云又義光ニ四男

子アリ嫡ヲ義葉ト云佐竹ヲ以氏トス
二男盛義平賀ヲ以氏ス三男景光ト云
別ニ氏ヲ載セズ早世カ四男ヲ義清ト
ト云逸見ヲ以氏ス且東鑑ニ治承六年
三月五日山田太郎重澄日來朝夕夜候
殊竭懇懇之忠仍今日賜一村地頭職云
云又元暦元年二月七日寅刻引合勇士
餘騎着干一谷後山越号鶴云此人数ノ
中ニモ亦山田太郎重澄ヲ載ス又義
久三年六月十四日宇治川合戦東兵
ノ中ニ山田藏人ヲ列書ス各其姓ヲ
詳カニセズ但源姓山田氏ハ大系圖

ニ具ナリ尤六孫王經基ノ後胤ニシ
テ新羅三郎義光ノ末裔ニアラス今
此山田氏ハ大芋郷ニ移リテ後氏ト
スル云ハハ大系圖ニ載セシ山田氏
ニアラス然者始ノ氏ノ出ル処校ヘ
カラス又建保ノ乱ニ北条ニ屬シ其
後足利尊氏ニ屬スト云建保ノ乱ハ
元年ナリ尊氏ニ屬シタルハ年号ヲ
アケサレハ詳ナラサレトモ尊氏始
テノ上洛ハ正慶元ナレハ建保元ヨ
リ正慶元マテ百二十一年ニ及フ此
年間百二十一年ナリ然ルヲ父子ニ

代トス又尊氏以後輝吉カ感状ヲ授
リシ大永二年マテ家系十一代ナリ
先祖始尊氏ニ屬シタルヲ正慶二年
トシ其年ヨリ大永二年ニ至テハ二
百一年ナリ父子二代百二十一年ハ
名長命又十一代ハ谷早世カ疑ハシ
是ヲ以テ觀レハ輝吉以前ノ家系ハ
後世ノ偽作ト見ユ然レ共輝吉以後
舅トシ婚トスル者由緒アル者ニテ
村民モ信シ曾輝吉カ得シ感状ヲ家
ニ藏ムルトキハ輝吉豪傑ニテ其先
祖モ故アル士ナルカ

輝吉

山田五郎左衛門從

輝秀被免一字
又感状アリ其文曰

治忠

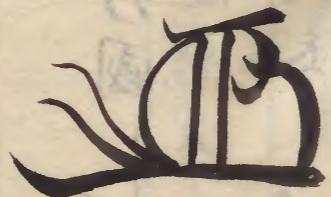
山田左近

吉元

山田五郎七

今之友輝秀於之君不乃忠勤。拙。
後之母波國名紅部大守。下歸東
北向管東水流域。山林其為鳥飼
与之變。河名之有。東邊東水河
大永二年五月。

輝秀



山田五郎左衛門

忠行

山田左兵衛

大内左京亮

義貞卜戦

行春

山田左衛門

春精

山田七九郎

精永

山田孫右衛門

女子

荒木山城守室

女子

沢田平内妻

秀永

山田六太夫母ハ

山上左衛門尉女

秀國

童左衛門

利秀

九兵衛

秀光

傳左衛門母ハ山上孫太夫女

秀元

次太夫

秀重

十左衛門

山上七右衛門養子ト十儿

女子

西野々村佐々木孫左衛門妻

秀原

傳兵衛母ハ福井村森本氏女

女子

福井村中馬氏五右衛門妻

女子

福井村林玄昌妻

女子

龜山君ノ士
森本弥三右衛門妻

秀豊

傳左衛門

秀貞

駒次右衛門

小倉村兵衛刃養子ト又

秀行

庄左衛門母山上氏六兵衛女

妻初小倉村久兵衛女後曾地村士屋
氏称五太夫女

女子

森本庄藏妻

秀盈

丹治後傳左衛門又醫トナリ 潜陸号

妻初福井村藤井氏儀兵衛女
後久下青田村竹安七兵衛女

秀精

大助後傳左衛門

妻福井村 赤木氏彦太夫女

秀賢

五郎兵衛

妻藤井氏三左衛門女

某

七九郎

女子

某

鉄五郎

犬山上村

才太大家系

某

奇藤伊与

長沢兵部少輔家老大山城滅亡ノ日
戦死

某

同才太夫

兵部少輔子ヲ女抱シ追入ニ去以上
長沢家譜ニ出

某

清吉才太夫後号道全

松平山城守忠国君扇ヲ賜フ

某 岡右衛門才大夫

某 才大夫 清右衛門

某 才大夫 儀右衛門

某 當才大夫

家藏 品書 一 萬治三年大坂城修理ノ時松
平若按守康信君大坂出役ノ徒へ法度書一通
アリカノ法度書ヲ持傳フルヲ見レバカノ頃ニハ大
山在內百姓ノ冠タル者ト見ヘタリ右法度書左ノ如シ

元

一 今度大坂法度書持役者 御公儀

一 法度書何事ナリ 本書中ノ多敷ノ旨

一 皮地ニ書キテ内宣讀以備仕方ニ及ル

一 之類有ク 申取申取申取申取

一 執事申取

一 他所ノ事ノ 申取申取申取申取

後多々之出合つて毛紙へ引可
張如、毎用之入山家、
此等事

一 汎華小奇、每古酒樽、
此物仕

一 詰勝、肩、
仕

一 宿、
仕

一 及、
仕

仕、
仕、
出、
人、
仕、
仕、
仕、
仕、
仕、
仕、

一 押買抄賣仕方なりし頃の
侍衆の由りもぬきしにあり有
しふを以てありし頃の園に
一 小倉並町を結ぶるの西に
ら角心で侍方たり事さるが
しに候おもしろい處あり
と申是れ中なる也法(あり

うゝあり
ちゝ後可おもしろき遠く
望み中なる也

百法二

子七月日

康信

私云右法度書執事人者ヨリ出サシメス

自カラ實名ヲ書シ玉フコト故實ヲ
用ヒ玉フト見ヘタリ
又山城守忠国君ヨリ拜受セシ惟子ア
リテ大庄屋岡田多助カ見タル事ア
リイカカト問今ノ戈太夫曰着用シ
テ無ト云多助カ子又右衛門カ話ニ
大山ニ来リ任セシ初彼カ先祖ト我
等ノ先祖ト同時ナルカ彼カ方久シ
キカ其詳ナルヲ知ラサレトモ上村
ノ内ニテ老久シキ家筋ナリト云
右家傳ノ説ニハ元祖太夫ヲ伊
与カ父トシ明智光秀ノ家人ト云

ト元太夫ト唱フ伊与三歳ノ時光秀
減亡ス乳母伊与ヲタスケ久下谷上
瀧村ニ遁ル六歳ニ及ンテ大山出雲
何某ニ撫育セラレ十八歳ニシテ家
ヲ真ス松平忠国君ノ丹後宮津城ニ
赴キ玉フ時扈從ス
私云光秀ハ天正十年六月ニ亡ヒ丹
波ハ秀吉公ノアツカリトナリ堀尾
茂助吉晴鎮護トシテ造ハサレタリ
此頃ニ大山出雲ト云人在リシコト
ヲ聞カス大山庄ハ統テ長沢領知
セシト見ヘテ此庄内ニ下村長沢

ノ居城ノ余城館ノ跡アリト云モ
是ハ明智光秀カキツク処ナリ
大夫伊与ヲ父子ト云ハ兄弟ヲア
ヤマリシト見ユ且明智カ時ニ父
ヲイ太丈ト云タルニ光秀成亡後
子ヲ伊与ト云ヘキ道理ナシ上滝
ヘ道ルト云ハ落城ノ時久下谷ノ
方ヘ去リ上滝ニ暫ク忍ヒタルナ
ラシ淨入ノ説ハ尙近ク祖母兵部
女輔妻ノ話ナレハ相違アルヘカ
ラヌ宮津城赴クト云ト扇ヲ簾受
シ又響ヲ持傳ワルヲ見レハ大芋

庄福井ノ林氏カ先祖ノ類ニテ騎ニ
シテ徒行セシカソレ長沢兵部戦死
ノ時イ太丈ナカリセハ長沢ノ末葉
永断絶セシ是ヲ思ヘハ忠臣ナリ其
末イ民トナリ村役人ニ蹲踞スア、
時カ命歟

... (Faint bleed-through text from the reverse side of the page) ...

大澤庄大沢村住

松本八郎兵衛

右中奥之祖

某

杉本与右衛 家傳曰大沢真谷山城主

酒井勘四郎ニ隨仕六所ト字スル所ニ

居住ス石田久兵衛ト云者モ亦同仕

ハ兩人大沢村ヲ領ス然ルニ天正六

年右城亡ト漂泊ノ身ト成リ大沢村

ニ藝居シ百姓トナル文禄三千年前

田去以此辺ノ田圃ヲ檢地ス其時ノ

民圖帳ヲ持傳フ去以ノ印有但此頃

八大坂御代官所ト觀工

某

助右衛門慶長十六亥年領主松平

山城守忠国君命ニテ名主卜号口
^{免狀} 一斗 支配内三
^{一通} 百三石五斗三升九合大沢村百八
十四石六斗一升八合川原^{中野}三百
四十四石五斗三升五合新町^{今田味}一石
百七十石九斗八合大飼但四十
五斗八升八合八初田村廿五石八
牛ヶ濱村百四十石三斗二升大飼
村十リ
正保元年名主ノ号ヲ正テ大庄屋

卜号セラル味間村傳左衛門卜
同職在役四十二年寛文二寅年
四月六日免セラル

武治

八右衛門寛文二寅年四月六日大
庄屋卜ナル在役十二年延宝元
丑四月二日免セラレ

武礼

八右衛門延宝元丑年四月二日大庄屋
卜ナル在役三十五年宝永四年
八月十一日免セラレ

武清

八郎兵衛享保元申年十一月十一日
大庄屋トナル但組庄屋ト呼ル在
役十年享保元申年十一月十五日
免セラル

武箕

八郎兵衛享保元申年十一月十五日
日組庄屋トナル寛延二己年ヨリ
又大庄屋ト号セラル郡中同
校武家系圖二三浦義明一男ヲ校本太
帝義宗ト号ス是和田義盛及義茂
宗實義胤義長等ノ父ナリ義茂号栢

本其子高茂其子實茂其子時茂其
子兼茂其子茂明嘉元三年依北条
時村之事逐電私云此時丹波国
二通レ来ルカ然レハ平姓ナリ又
按大平記卷第五建武二年正月十
六日合戦条下ニ師泰力兵二万餘
騎一足ニ夕メ大五条河原ハ颯ト
引退此ニテ栢本判官曾我次郎左
衛門被討ニケリト出曾我ニ此頃
丹波ニ居レリモニ此判官力未葉
ニハアヲサレカ

又真南余村権兵衛カ家傳ノ書ヲ見
ルニ文禄二年三月十五日同村池地
トシテ時ノ領主生熊源女ヨリ荒田
九畝免許状ニ田村宗桂松本吉清ノ
名アリ又右池毎年普請料トメ荒田
二及免許状同月右兩人ノ名アリ又
天正廿政元為
文禄元年六月四日龍藏寺茶園
ノ事ニテ同上村百姓へ裁判書ニ生
熊源女内松本又函書判アリ又同年
十一月廿八日同村願勝寺へ荒田一
及歩ヲ寄附トシテ右権兵衛カ先祖

へ送りシ文書ニ杉本又魚ト書シ花
押アリテ酒井藤右衛門殿ト宛此又
之魚ヨリ寄附ノ文ト觀ヘタリ是
此又魚ハ与右衛門父ニアラサルカ

得スレテ家賊悉ク焼コレニヨツテ
中山ノ由緒知レスト松山何某カ
話ナリ
天文中中山氏田地賣券奥畑村平石
寺ニ藏其文曰

永代賣渡シ申ル地之事

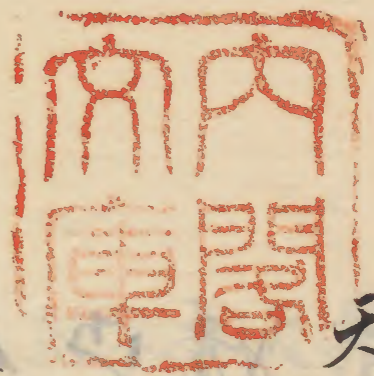
今之従者八中宗代之在也
寺者

南家平西海居
寺者
地流中村

右波地名流河親子未傳之也

於此有之要用得為之
平石寺宝持坊(賣渡中)西之
但改而林之申山本段山
山流者也第一子一孫一
坊中半之者時一わ公方
老之依之永代賣券狀也

初考入



天文立年二月九日

中山

宗真

辛石寺

宝珠坊

系

改良

東鑑畠山重忠ニ与シ三浦衣笠城ヲ

攻ムル人数ノ中ニ中山次郎重實ノ名
 アリ文治五年七月十九日武衛進發與
 州供奉之徒一千騎ノ中ニ中山四郎重
 政同五郎爲重ノ名アリ又建久六年三
 月十日東大寺供奉供奉ノ中ニ中山大
 郎中山五郎中山四郎ノ名アリ又正治
 二年二月六日武衛鶴岡社参供奉ノ中
 ニ中山五郎爲重ノ名アリ又建曆三年
 五月二日和田義盛叛逆ニ与シ同日
 戦テ逃奔從中山四郎重政中山五郎爲
 皇ト又兼久三年宇治川合戦東岳ノ中
 ニ中山次郎重繼ノ名アリ比時戦功有

テ此地ニ封セラレシカ六月十四日同十
七日ノ記ニ中山太郎重澄守治川ヲ度時
ニ春日刑部三郎貞幸馬ニテラフト出

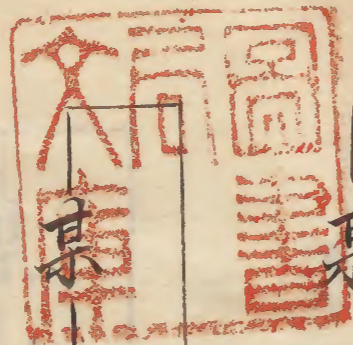
泉村

山田弥兵衛家系

右先祖不知或説曰嘗テ生駒家ニ任ト云
弥兵衛ニ問曾テ知ラスト云 微意アツテ
カクセルカ 當野ノ酒井三女 生駒 諸岐
守ニ任フコレヲ以テ校レハ 彼家ニ任
ヘタルカ 諸岐守子 壹岐守時代 寛永中
家老 生駒將監ト 前野助左衛門ト 不平
ニテ 家人ニ分シ 家亡フ自是以前ニ任
ルカ

新左衛門

某



新左衛門弟

寛永十酉年以後
同十三子年以前 卿代官

久太郎

寛永十三子年以後
正保元申年以前 卿代官

久太郎

某
正保元申年以後
慶安元子年以前 卿代官證書有

慶長十三年ヨリ元和四年年マテ
庄屋元和五年ヨリ寛永十酉年
マテ卿代官證書アリ
此ノ墨印ノ指渡之屋敷不
實ノ由也神多因候ハ後日
下カ移名也ヨリ

寛永四年

卯拾月

代官

新左衛門

酉年免成之事

平一

一 右の式下

和泉村

以

右の式下 右の式下 右の式下

元禄二巳年 十月

川崎屋

元禄二巳年

元禄二巳年

元禄二巳年

新左衛門

元禄二巳年以後 大庄屋
正徳三巳年以前

新左衛門

正徳三巳年以後 大庄屋
元文四未年以前

新左衛門

元文四未年 大庄屋トナル
明和三戌年 氏ヲ稱スルコトヲ免許

某
田嶋平左衛門
大正五年
...

某
...

某
...

野尻村住

東西園谷東西濱谷 畑平左衛門家系

野尻今福大野等之大庄屋

右本名吐生他ニ於テハ野尻ト称ス

波部乾 紋九三ツ引

某

掃部

妻畑牛之允女

波辺又右衛門

金吾中納言秀秋郷ニ仕領知目錄了

某

某

リ野尻村弥平太家藏也其冬三曰

知方目錄

一 百名八斗

後生部

野尻村

一 蔵百の程定名年

後生部

赤山村

一 五名同七年

少部

合名百名

右之杖助佐合可成知者也

交長四

一月

未乃秋

野尻村

後ニ前田主膳正ニ仕フル由宛行書アリ
是ニ弥平太カ家藏ナリ

家行知行之事

一 或百如給名 大徳

一 少給名 小徳

合免名

右可有所加也

或長給年月日

之

波戸文書

三男 某 庄内

四男 某 平助

某 号四郎太夫從文禄三年至寛永
三申年 御代官

某 甚右衛門從寛永四丁卯年至慶
安二丁卯年 御代官從慶安二己

某

平太夫從万治二己亥年至貞享四丁卯
年大庄屋卜十儿

某

八部兵衛

某

弥平太

某

平太夫從貞享四丁卯
年正徳五乙未大庄屋
卜十儿

某

當平左衛門從元文
四乙未年大庄屋卜
十儿

某

甚右衛門

某

勘太夫

某

与次右衛門栗栖野村
酒井氏ノ家ニ養子卜
十儿

某

某

平助從享保十二乙未年至元文四未ノ
年大庄屋

某

當弥平太

私云波多野軍記丹波真敷記等ニ
永祿ノ頃野尻主水ノ名アリ此未
流刃氏ニ村名ヲ用ユルヲ考レハ

久シク此地ニ住スルト察セラル元祖四
郎太夫カ御代官トナリシ文禄三年ヨリ
今明和八年卯年ニ至テ百七十八年其
家五代當平右衛門齡七十有余最壯
健也先祖以来各長壽而代々里正ノ
職相續キ且居所ヲ替ヘス最モ素也
此類實ニシテ希ナリコレニ因テ是
ヲ想フニ各隱徳アルカ當時平左衛
門家用不僂レトモ一村私有ト云ハ
ス身ヲ御ヲ採テ圃ヲ穿ツ村人ノ訟
告ルニ私意ヲ交ヘス縣令ニ詣訣ノ
言ナシ所謂剛毅木訥ノ質ト云ハシ

カ秀秋卿ノ賜ヒシ知行目録ニハ吐生
トアリ又慶長十年ノ領知目録ニハ實
名ナキ工上何君ト云コトシレス然レ
トモ村名ニ大沢ノ内トアリ又小立
ノ内セウカトアルト慶長十年トヲ
以テ授レハ秀秋卿慶長七年十月十
八日^ニ至^ニ歳ニテ卒シ玉フ嗣子十
フシテ家亡フ因テ浪人トナリ故卿
ニ級リ領主前田主膳正ニ仕フト見
ユ前田氏ハ慶長三年ヨリ同十一年
迄八上ニ居ス此家亡ヒテ又浪人シ
後十キニヨリ同氏家藏トナルト

見へタリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

長勝

生熊源女

野尻村

平左衛門家系

某

源太夫

某

平右衛門

某

喜兵衛

某

平右衛門今田地無

私云生熊源女長勝ハ天正年中真南條
領主タリ而ルニ子孫土民トナリタル
コト未其故ヲ詳カニセズ

織田軍記ニ生熊市太夫ハ河部高屋
城主畠山昭高政長六代後胤家来元龜三年逃
佐河内守カ爲ニ昭高ト共ニ自殺トアリ
カノ源女ハ市太夫子ニハアラサレカ右
平右衛門カ家系ハ同村弥平太諸ナリ

某

河部

平右衛門

某

河部

河部

河部

河部

平右衛門

奥畑火打岩村

大芋氏

姓不知紋釵酸醬ニ蔓

カ兵衛家系

某

大芋式部丞

勝元勝家人感狀有其文曰

去十ノ百於古田但燒法ノ合。我九カ力
打也弟妙手。是後と云ル神妙法。
拙者も亦ハカ海ノ

カカカ

勝元

印

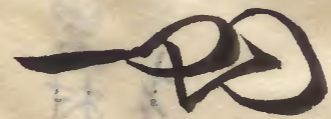
右京大寺持之

去之百廿山曾祿村合致之附

家藏之也。後之。也。神妙也

此之。神我切之。也。也。

九月廿日 持家



右京大寺持之

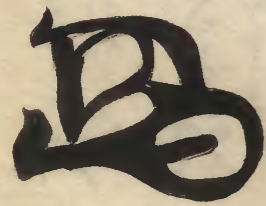
右上色

花押鑑

源勝元

左京大寺持之長子

右京大寺從四位下管領文明五年正月十一日卒年四十九號龍安寺



畠山牛菴家藏

大芋或出之ノ擲歌

慶氏

大芋兵庫女

領知目錄有但一通り書次第シルシノ順以下同

富後夏田

一 大芋

大芋常力

一 大芋

同前

コウ社西川ノウラ白

三一 大芋

同前

一 大芋

同前

日石

軍代

同前

一 大芋

同前

夕ラヤ

就辰

和而結

一 大芋

大芋与之

昭ノク

戴辰

大芋与之

一 大芋

同前

小田中第カハラ

大芋

大芋又ハ

一 大芋

河布福山

家第町田

大芋

河布福山

一 大芋

同前

長ヤフ

大芋

一 大芋

道徳之書

町坪
世代

右茅乃系免

日蓮
三三三

同前

ワキ谷何系

同前

十五代

右茅乃系免

小田中若カハラ

茅乃系

何人
三三三

同前

サニ系
三三三

同前

五三
十五代

同前

八段田ノ系

同前

ヲタラハ町田
三三三

同前

一系社ノ系

右茅乃系

番カミ
三三三

同前

ワキ系

同前

アラキカリ十五坪
三三三

同前

ノ口本ナワテ道下

同前

丸山系
三三三

同前

神信田ノ系

同前

サワウコノ系

同前

廿系

同前

石根系

右根山根系男

三系
三三三

同前

三系

村重山ノ系女

三系
三三三

日乃系子系

三系

右重石カノ系

三系
三三三

村重系

三系

右祥高系

廿八系
三三三

右茅乃系

三系

在日田系

以上

右等知新分目録如件

大芋兵衛助

明應六年丁巳九月

廿二日

大芋重次郎

某

波多野元秀感狀有

大芋一藏 元秀

昨日若木村少舎
中佛毛又少村本口
年之少以教佛之
弟之少以少海心
少以少以少海心
少以少以少海心
少以少以少海心
少以少以少海心

下船成る所あり
備へ

八月十日

元秀丸

徳川家

大羊三郎

文書

大羊三郎 文書

某

大羊又二郎

某

大羊甚兵衛

天正頃ノ人ナリ藤本浮舟ト云者ヨリノ文書
アリ

シヨクニナリナリナリナリナリ

山形知ノ候本洞ノ旨ヲ我ニ

後見ナリナリナリナリナリ

右甚兵衛末孫甚兵衛居宅ニ小池アリ
蛸井ト号ス家貧
其人ニ賣リ西本庄村ニ移リ住ス

女

篠山二階町畑屋又太丈妻

某

佐兵衛京都ニ赴キ大佛前飯店ニ事

後行方ヲ知ラスト云

某

知名藤七後又兵衛

實ハ又太丈カ子佐兵衛為養子又兵衛
田享保元年八月廿七日甚兵衛死セシト
ス時ニ遺言云先祖士タリニ時代々

得タル感状并ニ家系讓リノ證書ヲ
養子藤七ニ与フ但被知少ナル故縁
者西本庄村文右衛門エアツク然ル
ニ藤七幼年且貧シ故ニ京師ニ赴キ
市人ノ家ニ仕フ居ルコト数年ヒトト
成テ郷ニ皈リ文右衛門カ家ニ往ク文
右衛門既ニ死ヨツテ子五席四席ハ對シ
嚮キニ佐兵衛カアツケシ感状及系圖
ヲ得シト請使テ出シテ与フコレヲ見
ルニ感状ニ札領知目録一札書簡一札
諱狀ノミ也此余不足ス然レトモ縁類
タルニヨツテ黙止ノ去ルト云

私云右系圖ハ如何致シタルヤト問ハシ
△五帝四帝答テ父文右衛門貪シテ
テ往年他人へ賣リ達スト云ヨシ同村
庄屋書ヲ以テ述文庄屋へコレヲ傳
潛ニ校ルニ貪キ土民且文才無キ
者ナレハ系圖感状ノ差別ヲモ知
辨ヘスシテ右ノ言ニ及フト見工免
許状ハ他人ノ家藏ニアレトモ系
圖ハ見ヘサレトモトヨリ相傳セサリ
シト察セラレタリ按スルニ明應六年
ノ知行目録ハ其頃細川政元ノ代故
ニ免許状ヲ得ン爲ニ出シタルヲ傳

ハ其時ノ免許状ハ矣シテ傳ヘス又
永正六年ノ免許状ハ高國ヨリ得
タルヲ傳ヘテ其時出シタル知行目
録ハ失シテ傳ヘスト見ヘタリ

右讓狀如左

先祖ハ相傳リヨムケレテ書物ハ亦モ
之ハ皆在クハ譲リテ知實心ノ大ニ書
物ハ亦村ノ又モハ亦ハ亦ハ亦ハ亦
早速ニハ亦ハ亦ハ亦ハ亦ハ亦ハ亦
ハ亦ハ亦ハ亦ハ亦ハ亦ハ亦ハ亦ハ亦



日知所

享保元年申八月

知金文庫

印

蛸井佐三郎



